

Die Eiche

ディ アイヘ

<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

年頭のご挨拶

-千葉県日独協会会長 金谷誠一郎-

新年おめでとうございます。



100年前に世界中に蔓延した「スペイン風邪」は、会員の皆様には、第一次大戦で日本軍に敗れ、習志野の浮城収容所で感染死されたドイツ兵に対する当協会の「慰霊祭」を通してご存知のとおりですが、今回の新型コロナウイルスによるパンデミックは、昨年夏以降急速に世界中に広がり、収束の兆しは未だに見えておりません。このような状況下では、一堂に会してのイベント開催は残念ながら見送らざるを得ませんでした。その中で恒例のドイツ軍人追悼慰霊祭は、規模を大幅に縮小して、何とか実施にこぎ着けることができ安堵致しております。

対面での行事ができなかった分、ズームを使った「シュタムテッシュ」、オンライン・ドイツ語講習の開催など、新しい試みを実施することができました。本通信『Die Eiche』も1号の遅れもなく刊行し、予定通り発送できましたことは、皆様のご協力の賜物と存じます。また今年で丁度10年となる「日独交流150周年記念菩提樹」につきましても、関係各位のご協力によりその後の成長のあとをたどることができました。コロナ禍の中にあって、本年も皆様のお知恵を拝借しながら、将来を見据えた協会のあり方を考えて参りたいと思っております。

さて、本年は日独交流160周年、当協会発足25周年ということで、コロナ問題が無ければ、祝賀会を挙行したいところですが、コロナワクチンが我が国に入って来ても短期間でこの事態が終息することは困難と思われます。それに代わるものとして当協会の設立に関与された皆様から当時のいきさつ、あるいは設立以降10年程度の活動状況をご記憶されておられる会員の皆様に思い出話をご執筆いただき、「千葉県日独協会設立25周年特集号」を発行してみてもどうかと考えております。新年度の役員会で承認を得られましたら、協会設立の1996年以来の会員の皆様に原稿をお願いすることになるかと存じますので、その節は何卒宜しくご協力の程、お願い申し上げます。いずれに致しましても、このところのコロナ感染者数急増により、病床満杯の病院が多い為、自宅療養となる可能性が高く、更に回復後も様々な後遺症に悩まされる事例が多いとの事ですので、会員の皆様にはくれぐれも注意してお過ごし下さい。

最後になりましたが、本年も当協会の運営に是非とも皆様方のご協力を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

杉田副会長・事務局長-年頭の抱負

2020年4月以降、コロナ禍のため、協会活動は惨憺たる状況となっております。理事会、及び総会は、創立以来初めて書面会議となりました。運営委員会もメール、及びオンライン形式での会議を強いられています。また、行事としては、「ドイツ軍人慰霊祭」を少人数で開催した以外は、「ドイツ語講座」と「Stammtisch」をかりうじてオンラインで実施できています。コロナ感染の1日も早い収束を願うばかりです。そんな中ではありますが、事務局長の立場として、年初に下記2点を指摘させていただきます。



1) 新規会員を増やそう！：会員数は、2015年4月個人135名、法人5社でありましたが、現在は個人127名、法人4社。2020年度の退会者5名、入会者3名。退会者の多くは、高齢が理由です。現時点での平均年齢は、69.6才。70才台が47名、80歳以上が36名である。今後、新入会員をお迎えして会員減少を食い止めるとともに若返りを図りたいと思っています。ご友人、知人等を積極的に誘ってください。

2) 協会財政を改善しよう！：この数年間を見ると、収入は会員からの会費で年約40万円、支出としては、「Die Eiche」制作・郵送費、ホームページ(HP)維持・運営で約28万円、団体加入費、その他で約19万円、計約47万円。収支マイナス約7万円は寄付金で何とか賄われてきています。会費値上げはせずに経費節減をすることが課題であり、これを達成するためには、「Die Eiche」とHPのあり方の見直しをすることが有効と考えられています。両者とも、会員間情報共有、及び対外PRの情報発信手段として重要な役割を有していますが、経費削減のためには、IT活用等により郵送費（約13万円）の負担軽減の検討が必要です。（ちなみに：最近、大阪日独協会は印刷物を中止、ベルリン日独協会は印刷物希望者から費用として年10ユーロを徴収しています。）

木戸副会長-年頭の抱負

昨年はコロナ禍という、思ってもみなかった状況となり、対面での行事は相次いで中止、もしくは大幅な縮小を余儀なくされ、たいへん残念な一年でした。



そうしたなかで、当協会主催の「ドイツ語講習会」（講師：岡村 一郎理事・早稲田大学名誉教授）をオンラインにより成功裏に終了することができました。また初めての試みとして、ドイツ語の勉強会と同時に会員相互の懇親の場を兼ねた「シュタムテッシュ」を、植松健理事の奥様アネットさんを囲んで、オンラインで和気あいあいのうちに行うことができました。

オンラインで果たしてうまくできるのか当初不安材料はありましたが、終わってみると、参加者からは好評を博しました。「ドイツ語講習会」は受講者の強い要望もあり、続編が行われることになりました。いずれも準備段階での担当理事の方々の献身的なご尽力も大きかったと思います。

今後の方向性として、コロナ危機が遠ざかった後も、こうした催しをオンラインで行っていくことも考えられるのではないのでしょうか。オンラインを使用することで、様々な事情から会場まで出向くことが困難な会員同士が、交流を深めていくことも可能になるのではないのでしょうか。そのために、必要に応じて「ズーム勉強会」なども行ったらよいかと存じます。

対面による会員間の親睦を深めていくことはもちろんですが、コロナ禍をきっかけに、在独の「日独協会」との交流など、オンラインを積極的に活用した取り組みも考えられると思います。また会員の有志から話題を提供していただき楽しく懇談する「オンライン茶話会」も行ってみてはどうでしょうか。

ドイツ最新事情

- 鎌田 タベア (元千葉県日独協会会員) -

Guten Tag! Hier schreibt Tabea aus Berlin. Erinnern Sie sich an mich?

Wie einige von Ihnen vielleicht schon wissen, bin ich am Juli 2020 mit meinem Mann und meiner Tochter von Tokyo nach Berlin umgezogen. Nicht, weil ich nach zehn Jahren in Japan das Land nicht mehr mögen würde (ganz im Gegenteil - ich vermisse es sehr!), aber ich wollte meiner Tochter auch die Gelegenheit geben, ihr anderes Heimatland kennenzulernen.



ベルリンでもマスク姿

Unser Umzug fiel leider mitten in die Pandemie und es war alles sehr chaotisch, weil man wegen sich ständig ändernder Bestimmungen kaum planen konnte. Nun, es ist für uns alle die erste Pandemie, dachte ich mir. Doch mittlerweile bin ich leider ziemlich enttäuscht vom Vorgehen der deutschen Regierung.

Diese Pandemie geht an keinem spurlos vorbei, aber die Inkonsistenz der Maßnahmen ist wirklich schwer zu ertragen. Natürlich bin ich für Masken, Abstand halten und auch für Einschränkungen. Aber momentan wird in Deutschland meiner Meinung nach sehr ungerecht gehandelt.

Schon Anfang November mussten Restaurants, Theater und andere Einrichtungen wegen der hohen Infektionszahlen schließen. Auch durften sich nur noch zwei Haushalte untereinander treffen. Nun befinden wir uns seit dem 16. Dezember in einem Lockdown. Das heißt: Die Kitas und Schulen sind zu. Theoretisch. Denn praktisch sind sie immer noch geöffnet - aber nur für Eltern, die nicht im Home Office von zuhause arbeiten dürfen. Die Kitas bitten, die Kinder nicht zu schicken, aber es gibt leider genug Arbeitgeber, die ihre Angestellten nicht zuhause arbeiten lassen, auch wenn es möglich wäre. Aber auch wenn man von zuhause aus arbeiten kann, ist das doch praktisch unmöglich, wenn man nebenbei noch ein oder sogar mehrere Kinder betreuen muss. Die Eltern werden mit dieser Verantwortung allein gelassen.



初雪を喜んでいる娘さん

Und nun sollen die Einschränkungen ab 11. Januar noch härter werden. Man darf sich nur 15 km von seinem Wohnort wegbewegen. Außerdem darf man nur noch alleine einem anderen Haushalt einen Besuch abstatten - das macht Besuche von kleinen Kindern (die nicht ohne ihre Eltern irgendwo hingehen können) völlig unmöglich. Die Krankenhäuser sind mittlerweile am Rande der Belastungsgrenze und ich verstehe, dass die Kontakte reduziert werden sollen. Doch wer arbeiten geht, trifft im Büro und auf dem Weg dorthin jeden Tag so viel mehr Menschen. Warum werden hier keine klaren Regelungen getroffen, sondern nur Empfehlungen an die Firmen ausgesprochen? Warum müssen sich kleine Kinder, für die soziale Kontakte so wichtig sind, mehr einschränken als teilweise verantwortungslose Erwachsene? Leider geht die Wirtschaft anscheinend immer vor.

Natürlich halte ich mich an die Regeln, das steht außer Frage. Aber ich kann verstehen, dass viele Menschen sehr

aufgebracht sind in Deutschland. Vermutlich ist die einzige Hoffnung die bereits Ende Dezember begonnenen Impfungen. Es heißt, bis zum Sommer könne jeder geimpft werden, der das möchte. Ich hoffe, dieses Versprechen kann eingehalten werden, denn die Enttäuschung der Deutschen wächst. Besonders Familien mit Kindern sind in Deutschland die Verlierer in dieser Pandemie - so meine persönliche Einschätzung.

皆さんこんにちは！ベルリンからタベアです。私のこと覚えてらっしゃいますか？既にご存じの方もいらっしゃると思いますが、実は私2020年の7月に夫と娘の家族3人で東京を離れ、ここベルリンに移住しました。その理由は「日本に住んではや10年。そろそろ日本に飽きちゃったなあ～」なんてことではありません（むしろ真逆、今だに日本のことが恋しくてたまりません！）。私はどうしても娘に彼女の「もう一つの母国・故郷」であるドイツを知る機会を与えたかったからなのです。

でもタイミング的には・・・私たちが引っ越したのはちょうどコロナ禍の真只中、全てがカオスそのものでした。何故ならコロナに関連しているいろいろな規則が朝令暮改、毎日クルクル変わるために私たち家族は長期的な計画が一切立てられなかったからなのです。「まあ、誰にとっても今回が初めてのパンデミックだし仕方がないか。」と最初は思っていました、時間が経つにつれて、ドイツ政府が発表する対策にはだんだん失望するようになりました。今回の新型コロナウィルスの蔓延はドイツに住んでいる人全員1人残らず、一律になんらかの悪影響があったはずなのに、出てくる発表が場当たり的で、私にはどうしても一部の人々だけを優先しているように見える対策に終始する政府が耐えがなくなってきました。だからと言って私自身、マスク着用にも反対していませんしソーシャルディスタンスもきっちり取っています。いろいろな厳しい規制にも従っています。だから尚更、昨今のドイツで実際に起こっていることが、必ずしも全ての人に平等であるとは思えないのです。

既に昨年の11月初めから、コロナ新規感染者数増加のため、ドイツではレストラン・劇場・その他の施設は全て閉鎖されており、お互いの家族間の訪問・会合も2家族までに制限されています。また同じく12月16日からは「ロッキングダウン」、保育所や学校も原則閉鎖されています。「原則」とは、在宅勤務が出来ない或いは許されない両親を持つ子どもたちは、保育所や学校に「例外的に」受け入れてもらえると言う意味です。現在保育所からは「出来るだけ子どもは自宅で見守って欲しい」と要請されている一方で、残念なことに在宅勤務が充分可能であるにもかかわらず従業員に在宅勤務を許可しない企業が未だに多く存在するという事実です。実は別の意味で、小さい子を持つ親にとってはもっと深刻な問題でもあって、「在宅勤務だから、仕事の合間に（1人のみならず場合によっては2人以上の！）子の世話をするくらい簡単だろう。」という安易な結論で片付けられ、問題未解決のまま子を持つ親が自分で解決しろとばかりに責任転嫁されているように思います。

この1月11日から規制が一層厳しいものになります。移動制限が追加され、自宅から15kmを超えて離れることが禁止となります。他の家庭を訪問する際は、訪問者は1回の訪問につき1人まで。と言うことは、（親の同伴が必要な）子どもを持つ親は、他家族への訪問は自動的に不可能となります。現在ドイツ各地の病院はどこも次第にその診療能力の限界に近づきつつあり、もちろん私も人との接触を出来る限り減らさないとはいけないことは充分理解しているつもりです。しかし在宅勤務が叶わず仕事のための外出を余儀なくされる人々はどうでしょう？会社で多くの人に会わねばなりません、そもそも毎日の通勤途中にもより多くの人に接するでしょう。なのに何故、企業に対しては厳格な規制ではなく単なる推奨だけに終わるのでしょか？それに引き換え、幼少期の社会との関わりが非常に大切な子どもたちが、ある意味無責任な大人たちの犠牲となりそしてより厳しい自粛を強要されなければならないのか私には理解できません。残念ながら今のドイツでは、結局最後はいつも経済優先のように見えます。もちろん私は何度も言うように一度決められた規則はしっかりと遵守します。しかし昨今、多くのドイツの人々は現状に対して私と同じように相当憤りを感じているのではと思います。そんな中、唯一の希望は昨年末に開始されたワクチン接種でしょうか。そしてそれは今年の夏までには希望者全員接種完了するであろうとの事。ドイツ人の失望や不満がどんどん大きくなっている今こそ、この朗報が公約通り実現することを心から願っています。

私は、今回のコロナ禍パンデミックによるドイツで最大の敗者は、「子どものいる家族」ではないかと思っています。（日本語翻訳/理事：植松健）

オーストリアのドイツ語

「オーストリアに留学していました」と言うと、たまにオーストラリアと間違えられて「英語が話せるのですね」と言われます。そんな時は「ドイツ語です」と訂正しつつ、(本当はオーストリア語なんです)と心の中でつぶやきます。そのような思いを抱かせる「オーストリア語」について、少々ご紹介いたします。

まずコミュニケーションの基本は挨拶ですが、「グーテンターク(こんにちは)！」はオーストリアでほとんど使われません。これに代わるのが「グリュースゴット(Grüß Gott)！」。朝も昼も夜も使えるので大変便利です。親しい仲だと「ゼアヴスServus!」「グルュスティGries di!」なども使われます。別れの挨拶は「アウフヴィーダーゼーエンAuf Wiedersehen」ではなく、「アウフヴィーダーシャウエンAuf Wiedersehen」。「ヴィーダーシャウンWiederschagn」と言います。

暮らしの中で遭遇する言葉も色々あります。例えばJänner。これは1月(独Janur)のことです。留学当初これが聞き取れず、危うく課題提出し損ねるところでした。他にも、Bankomat はATM(独Geldautomat)、Jauseは軽食(独Brotzeit)なども新たに知りました。

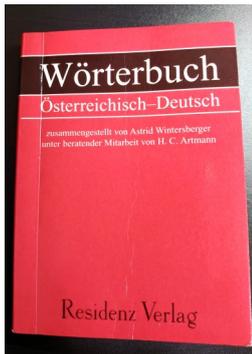
日々の学びは買い物でも。量り売りは「グラムGramm」ではなく「デカDeka」という単位が使われます。当初、お肉屋さんで辞書の通り「Ich hätte gern 200 Gramm Gehacktes. (ひき肉200グラムください)」と言うと、「Zwanzig Deka Faschiertes! (ひき肉20デカ)」と直されました。デカは10を表すので、200グラムは20デカとなります。

前述のひき肉Faschiertes(独Hackfleisch)をはじめ、食品名も色々違います。ムラサキキャベツBlaukraut(独Rotkohl)、ジャガイモErdapfel(独Kartoffel)、カリフラワーKarfiol(独Blumenkohl)、セイヨウワサビKren(独Meerrettich)、アンズMarille(独Aprikose)、ナスMelanzani(独Aubergine)、生クリームObers(独Sahne)、小型の丸パンSemmel(独Brötchen)、キノコSchwammerl(独Pilz)など。

飲食店でもオーストリアならではの言葉を見つけられます。例えばカフェで、有名なザッハートルテを頼むと「Mit Schlagobers?」と聞かれます。これは、ホイップクリームSchlagobersを付けるか聞いているのであって、決してウェーター(Ober)を殴る(schlagen)ではありません! また、レストランで頼む炭酸入りのリンゴジュースは「Apfelsaft gespritzt(独Apfelschorle)」と言いますが、こちらもリンゴジュース(Apfelsaft)のしぶきをはねかけた(gespritzt)というわけではありません。初秋限定で飲める発酵中の新ワインは、Sturm「暴風」といいます。

その他、同じスペルでも発音や文法上の冠詞が違うものもあります。同じようでも違うオーストリアのドイツ語。渡欧が可能になった折には、ぜひ現地で体験していただきたいです。

(常任理事: 土屋 有里)



現地の人から頂いた奥独辞典



ザッハートルテのホイップクリーム添え

ドイツの「正義感」と「議論文化」



ドイツと私 - 保坂 有里奈

皆さま、はじめまして。去年の8月頃、竹内優さんのご紹介で入会しました、保坂と申します。どうぞよろしくお願い致します。

ドイツといえば、ベートーヴェンやバッハ等の作曲家をはじめ、数々の名高い作家、芸術家や哲学者を輩出してきました。多くの方がドイツに関心を抱く理由の一つとして、上記の著名な人物や彼等の功績が挙げられるのではないのでしょうか。私の場合は、残念なことに、そのような格好良い理由とは少し離れています。2015年に大学でドイツ語学科に入学し、現在は日独共同の修士課程に所属していますが、私にとってドイツとは、子供の頃によく片手に抱えていたHARIBOの原産国で、値段が手ごろで種類豊富な大好きなビールが手に入り、童話の世界を描いたような地域が存在するところでした。しかし、振り返ってみると、ドイツへの興味を掻き立てた訳が別にあるように思います。



クリスマスマーケットでGlühbierの初試飲



留学中に足繁く通ったHARIBOショップ

私は、ドイツ社会全体に見られる強い「正義感」と「議論文化」に関心があります。ここでいう正義感とは、社会的弱者に目を向けたり、善悪の判断から、実際にアクションを起こせることです。まず、国家レベルでみると、ドイツは2011年の福島第一原子力発電所の事故を受け、日本とは対照的に、22年末までに全原発を停止することを決めました。また、2015年の難民危機の際、ドイツは一年間で約100万人もの難民を受け入れたといわれています。上記の政策に対する批判は様々ありますが、特に当時の難民政策に関しては、空爆によって住居が崩壊し、身の危険を感じてドイツへ逃亡したと話すシリア人に遭遇した際に、同政策によって多くの命が救われたという事実を肌で感じました。個人レベルでは、若者を主体に気候変動対策を求めるFridays For Futureの活動が広範囲にわたって見られました。2019年の秋に留学していた際には、約15,000人がボン周辺で抗議活動を行い、授業へ向かうためのバスの運行が妨げられる日があったことを記憶しています。



ボンの歴史博物館における2015年の難民危機の展示

このような意味から、ドイツでは、とりわけ政治や社会問題に関心が向けられており、日常の雑談においても同テーマが重要な位置を占めていると感じます。私にとってドイツは、強い「正義感」があり「議論文化」が定着しているところで、自分自身の社会や政治に対する意識や見解に影響を与えてくれます。今後も、ドイツとの関わりを通して、自らに問うことや発言することの大切さについて学び続けていきたいと思っております!

ドイツ語講座実施報告

-ZOOMを使ったオンライン授業-

オンラインドイツ語講習会が2020年10月31日から12月5日までの毎週土曜（19時30分～21時）計6回開催されました。講師は当協会ドイツ語講習会を過去2回お引き受け頂いた岡村三郎先生（早稲田大学名誉教授）、教材はElke Heidenreich 著「Nero Corleone」、黒猫が主人公（主猫？）の大人向けの童話です。受講者10名（協会会員：8名、非会員2名）で行い、岡村先生を始め、受講者、スタッフ全員自宅からの参加となりました。

従来行っていた対面式講習会をコロナ禍の中でどう開催すべきか色々模索していたところ、昨年4月以降急速に普及し始めたミーティングアプリ「Zoom」によるオンライン形式での講習会の開催を検討しました。これは当協会にとっては初めての試みです。

昨年夏以降、木戸副会長ご夫妻からサポート頂きながら、オンライン式授業は初めてにもかかわらず快諾して下さった岡村先生とスタッフで打合せと「Zoom」操作練習を行ない、これと平行して、申込者の中で「Zoom」が全く初めての方達と個別に動作確認を行いながら初回講習会を迎えました。

授業開始15分前になると、次々と「Zoom」にアクセスした受講者が全員集まり授業がスタート、各受講者が割り当てられた箇所を音読したうえで和訳し、岡村先生から受講者へ文法的な質問や、訳した箇所について補足説明や質疑応答等、対面式授業と変わらない双方向型で行われ、また、授業の最後には、教材の著者でElke Heidenreich自身の肉声によるドイツ語の朗読を全員で聞き終ったという形です。



授業開始時の画面

授業の後、受講者から猫に関連したサイトやその日に習った語彙に関して紹介された参考情報を、他の受講者全員にメールで共有することも多々あり、皆様大変熱心に受講されました。

最終日には、授業終了後に岡村先生と受講者全員で記念撮影（写真）を行い、例年行われる打上げ会の代わりに行われた反省会では、受講者各自感想を述べられ「今回にとどまること無くオンライン形式での協会活動を今後も是非継続して欲しい」という意見もいただきました。



最終回 全員で記念撮影（岡村先生：上段中央）

講習会終了の後にいったアンケートでは、受講者全員が継続参加を希望され、配布教材の残りの部分を完読する為、今回受講された方を対象とした継続講習会（計4回）を2月から開催することになり、今から皆さんとの再会が大変楽しみです。

最後になりますが、オンライン講習会開催にあたり、岡村先生、ご指導いただいた木戸副会長ご夫妻に改めてお礼申し上げます。

（常任理事 本間 美里）

日独交流150周年記念菩提樹

その後の成長 No.3

2011年に千葉県内に植樹された記念菩提樹は全部で30本でしたが、そのうち7本は私有地や小学校などに植樹されたもので、まとめて紹介します。協会会員の伊藤良昌様、伊藤光昌様、丸山孝士様、井本義孝様、また日頃お世話をしていただいている関係者の皆様にはあらためてお礼を申し上げます。

- 御宿町 1本 御宿町立御宿小学校
- 1本 布施学校組合立布施小学校
- 佐倉市 2本 社会福祉法人佐倉厚生会
特別養護老人ホームさくら苑
- 千葉市 1本 千葉県がんセンター
- 富津市 2本 社会福祉法人
ミッドナイトミッションのぞみ会
望みの門 楽生園および富士見の里



北村理事撮影 望みの門
富士見の里

北村侑三郎理事は、2015年から各所を巡り、毎年記念菩提樹の姿を写真におさめてこられました。去年は一緒に周りながら引き継ぎをする予定でしたが、このような世の中になってしまったので、先日全記録を小包で受け取りました。年々大きくなる菩提樹をすてきな写真で確認でき、とても感動しました。これからも健やかに成長してほしいと強く感じます。記念菩提樹は千葉県に点在していますので、移動するだけでも大変です。北村理事には心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

「菩提樹を見に行きましょう！」と気兼ねなくお出かけできる日が一日もはやく訪れますように。（常任理事：本橋 緑）

書籍/Buch

「物語 東ドイツの歴史」

1990年に東ドイツが崩壊してから30年が経過。本書は、ベルリンの壁崩壊後に公開された史料をもとに改めて東ドイツの支配体制、そこで生活する人々の状況を記述しています。参考文献は、現地発行の各種文献など約150冊を元に記述。この点からもコンパクトではありますが、最新の東ドイツの社会を再考することができます。中公新書 ¥900- 河合 信晴著
（常任理事：勝見 浩明）



今後の予定

【新春講演会 開催中止のお知らせ】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、恒例開催しています「新春講演会（2月）」は、今年は残念ながら中止することになりました。

【理事会、総会】

新型コロナ状況を考慮、開催方法を検討、別途、ご連絡いたします。

会員情報

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人
清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

編集後記

会長とお二人の副会長の年頭のご挨拶の箇所を改めて読み返しますと、コロナによる協会活動の変更を余儀なくされているとしつつも、これを契機として次なる活動の布石の時期と捉えておられることが理解できます。実際、これまで会場に足を運びいただいて運営してきたドイツ語講座などオンラインをフルに活用、時宜を得た活動に結び付けることができていると思います。前述のオンラインでの活動に加え、今後、ますます、協会と皆様との関係は、双方向での情報も視野に入れて考える必要があるかと思えます。その意味で今後、運営委員会の場においても新規会員の増加をも視野に入れた情報提供のあり方についても議論を深めることになるかと思えます。また、今回、鎌田 Tabeaさんによるドイツ最新事情を掲載しましたが、まさに現地で生活されている方からでないといえない価値ある情報や現地在住経験のある会員によるドイツの街紹介なども力点を置きたいと思っています。（勝見 浩明）